



多摩商工会議所管内景況調査報告

令和4年 上期調査結果

令和4年 7月

多摩商工会議所

目 次

調査の概要	1
調査事業所の属性	2
調査 1	3
①売上について	
②採算について	
③仕入単価について	
④従業員について	
⑤業界の景気動向について	
⑥資金繰りについて	
⑦金融機関の融資状況について	
調査 2	8
①売上見通し	
②採算見通し	
③仕入単価の見通し	
④従業員の見通し	
⑤業界の景気動向見通し	
⑥資金繰りの見通し	
⑦金融機関に融資状況見通し	
調査 3 新型コロナウィルス、ウクライナ、円安の影響等について	11
調査 4 今後の景気対策等についての主な意見、要望	13
付 錄 令和4年 上期 多摩商工会議所管内景況調査	14

調査の概要

◇調査目的 多摩市の景気動向を把握し、今後の意見具申・要望活動に役立てるために実施する。

◇調査期間 令和4年6月7日～令和4年7月9日

◇調査事業所 調査数 184社 有効回答数 101社(54.9%)

(内訳)

製造業13社・建設業16社・不動産業6社・サービス業34社・卸売業4社・飲食業9社
小売業14社・運輸業5社 以上101社

◇調査方法 無作為抽出による事業所に対して、書面調査およびヒアリング

◇調査内容 ①令和4年1月～6月の状況について、令和3年1月～令和3年6月と比較して調査した。

②令和4年1月～6月と比較して、令和4年7月～12月の先行き見通しについて調査した。

③新型コロナウィルス、ウクライナ、円安の影響やインボイス制度について調査した。

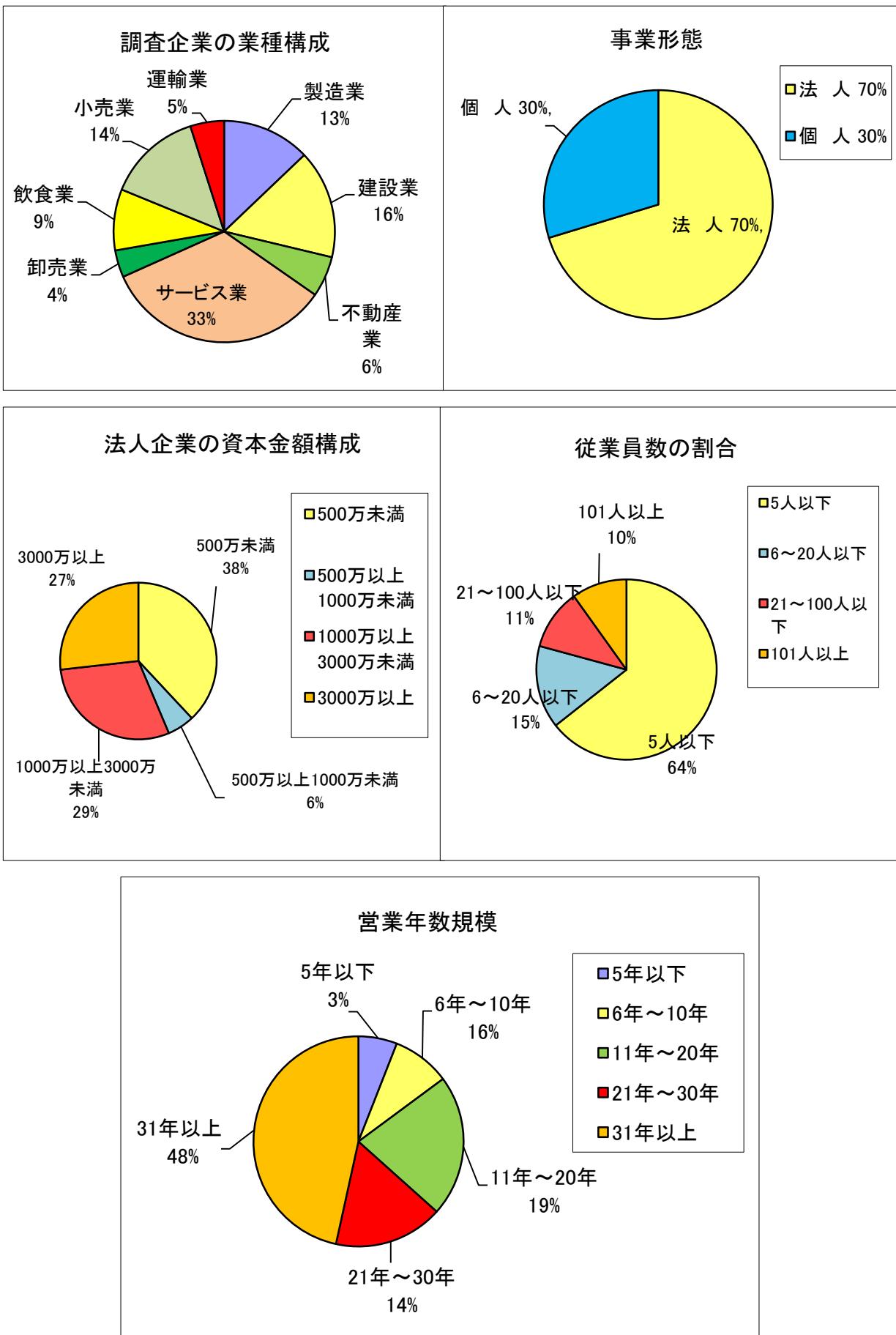
④今後の景気対策等についての意見・要望を調査した。

※グラフの数値は小数点を四捨五入しており、合計100%にならない場合があります。

◇調査結果

- ・令和4年上期の景況については、引き続き新型コロナウィルスの影響を受けており、全体の42%(前回59%)がまだ影響を受けている状況である。 景気の動向をみると「悪化」の回答が49%あり、依然として厳しい状況が続いている。
- ・令和4年下期の先行き見通しでは、コロナ感染者数が減少し、飲食店も営業できるようになったものの、第7波で感染者数が再び増加し、コロナ収束がまだみえないなか、景気の先行き見通しについては全体の40%の企業が「悪化」と回答した。
- ・ウクライナ等の影響で原油高・物価上昇については76%が影響ありと回答し、円安進行による業績の影響はデメリットが大きいが40%とメリットの3%を大幅に上回った。
- ・経営課題では、「売上・受注の減少」が約半数の企業から回答があった。インボイス制度では「登録済」が15%と回答があったものの、まだ対応できていない企業が50%であった。
- ・今後の景気対策等についての主な意見として、「商品単価が上がり続けているので、この先の消費者の動向が予想できない。」「5年後を見据えた支援制度が必要である」「コロナの収束とウクライナ問題による平和的解決が取引関係上、特に求められる。」「多摩市独自のポイント付与キャンペーン等、購買意欲をかきたてる施策がほしい。」「減税してほしい。」等の意見が寄せられた。

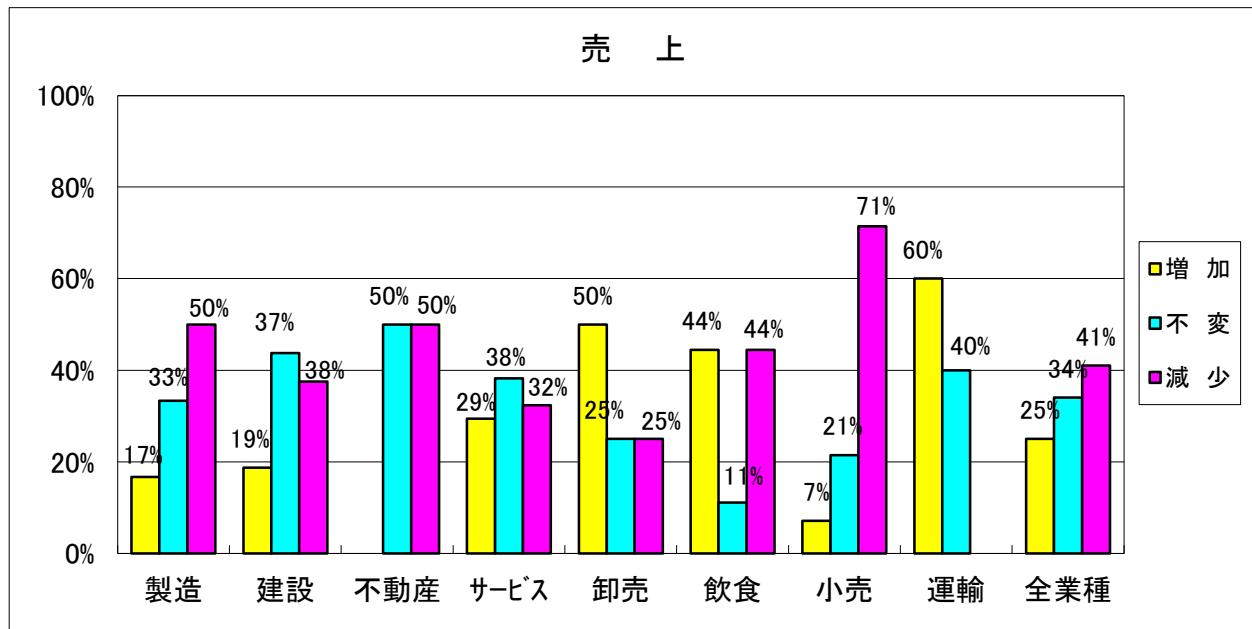
◇調査事業所の属性



調査1 令和4年1月～6月の水準が、昨年同時期と比べてどのような推移をしているかを①売上 ②採算 ③仕入単価 ④従業員 ⑤業界の景気動向 ⑥資金繰り ⑦金融機関の融資状況の7項目について調査した。各項目について、業種別で集計したところ次のとおりとなった。なお、⑤業界の景気動向については過去の調査結果と令和4年上期の見通しについて比較表示してある。

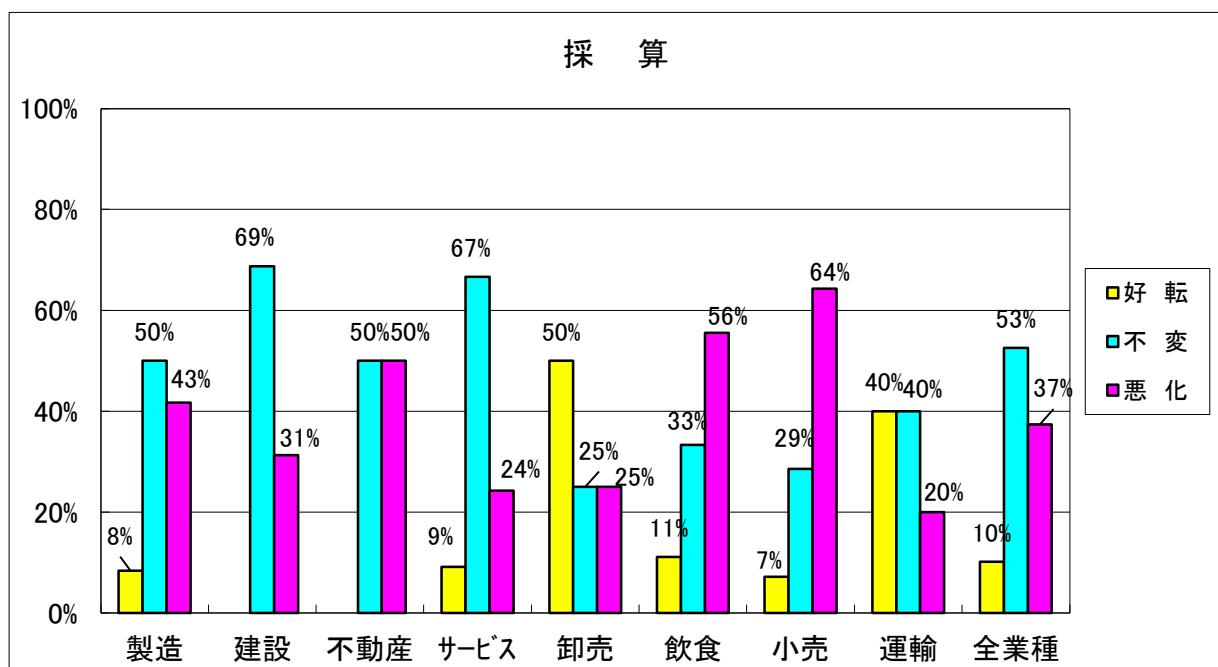
①売上について

全体的でみると昨年より「増加」が25%（前回19%）、「減少」は41%（前回48%）と、前回調査に比べると売上の減少している企業は減っているが、コロナ感染の影響は大きい。全業種の半分弱の企業が売上「減少」と回答し、特に小売業が減少している。



②採算について

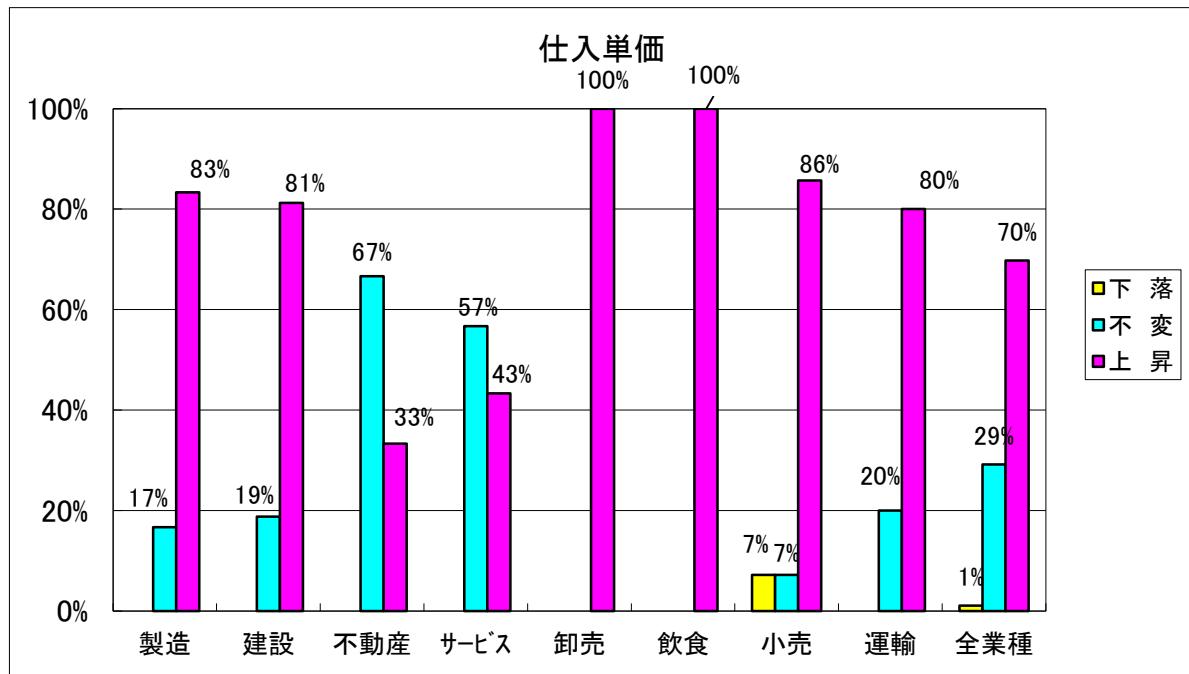
全体でみると、「好転」10%（前回11%）、「不变」53%（前回47%）、「悪化」37%（前回42%）であった。業種では小売業(64%)、飲食業(56%)が「悪化」大きく、厳しい状況である。



※グラフの数値は小数点を四捨五入して表示しています。

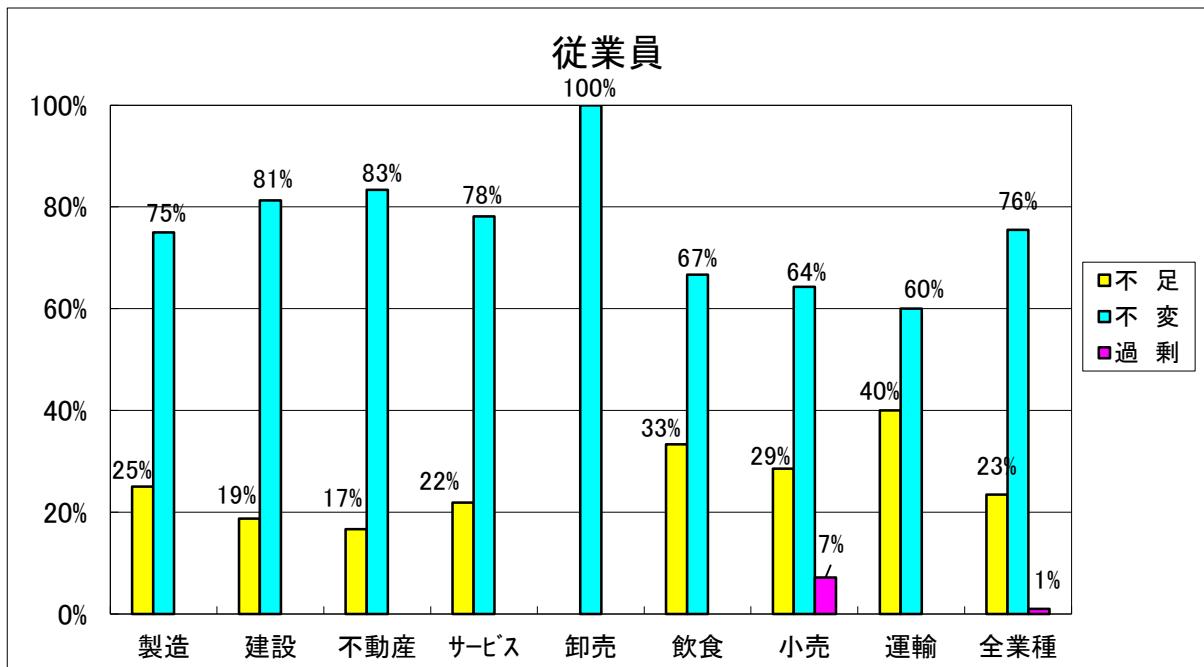
③仕入単価について

全体的には「不变」が29%「上昇」が70%であった。仕入単価の「上昇」顕著なのが、卸売業100%（前回100%）、飲食業100%（前回92%）であった。「下落」が大きかったのは、小売業7%（前回7%）であった。

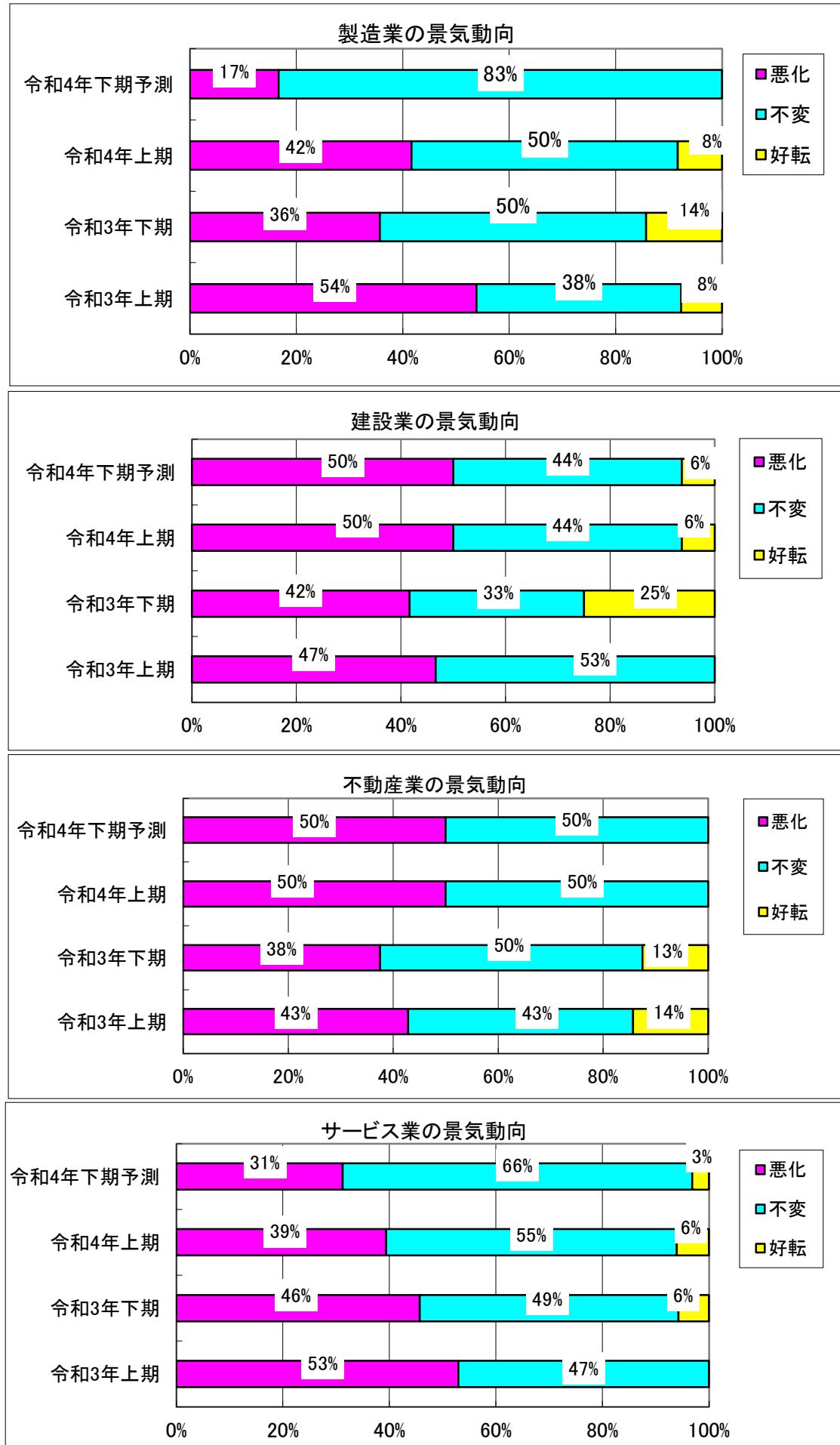


④従業員について

全体的にみると、企業の76%から「不变」と回答があった。そのような中、前回調査と同様に運輸業は変わらず不足の状況が続いている。また、飲食業が33%、小売業が29%、製造業が25%不足している。



⑤業界の景気動向について



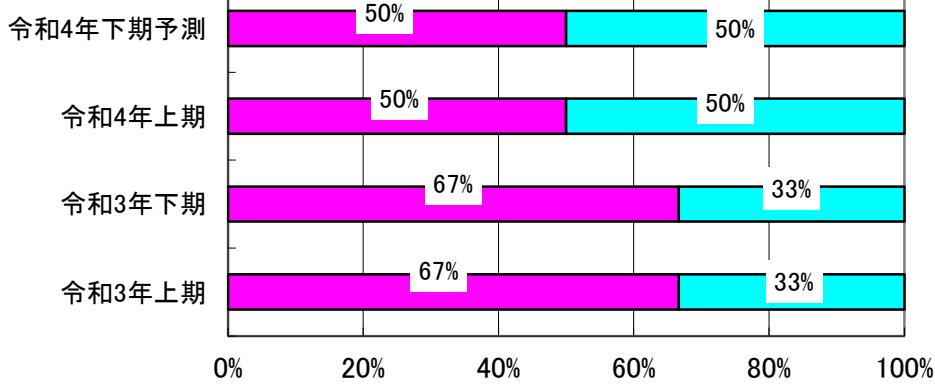
■製造業
令和4年上期では、一部「好転」8%と令和3年下期と比べて悪化し、42%が「悪化」と回答した。令和4年下期の見通しは「好転」が無く、「悪化」17%で引き続いだ厳しい状況が予想される。

■建設業
令和4年上期は、「好転」6%と減少し、「悪化」が50%と厳しい状況であった。令和4年下期では、「好転」が6%あるものの「悪化」は50%との見通しで厳しい予測がでている。あまりよくない状況である。

■不動産業
令和4年上期は、「好転」は無く、「悪化」が50%と厳しい状況である。令和4年下期も「好転」が無く、「悪化」が50%との見通しで厳しい状況が続く予測である。

■サービス業
令和4年上期では、「好転」が6%あるが、「悪化」が39%で厳しい状況であった。令和4年下期も「好転」が3%あるものの、「悪化」が31%と依然として厳しい状況である。

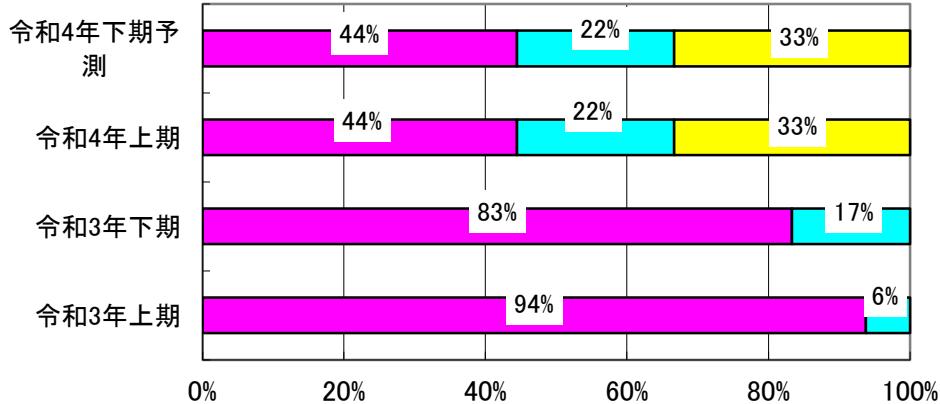
卸売業の景気動向



■卸売業

令和4年上期は「好転」が無く、「悪化」が50%、「不变」が50%で厳しい状況である。令和4年下期では、「不变」50%、「悪化」が50%で、依然として厳しい見通しとなっている。

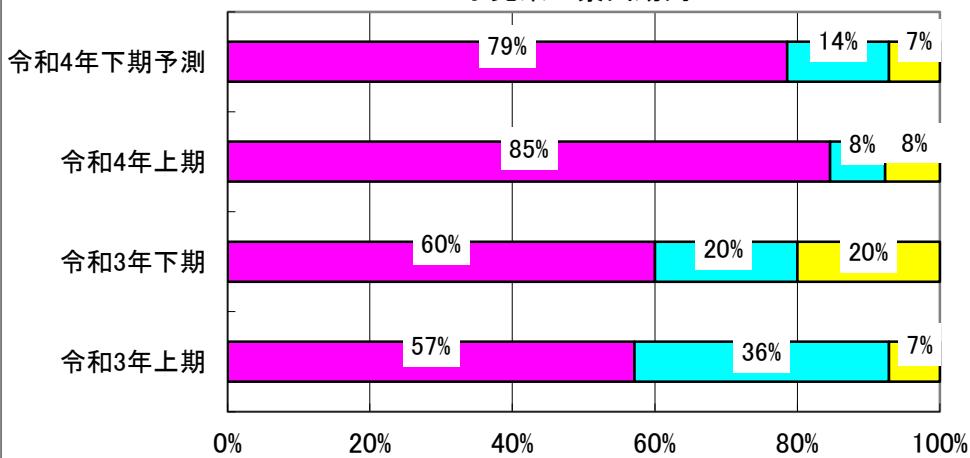
飲食業の景気動向



■飲食業

令和4年上期では「好転」が33%あるものの、「悪化」が44%と令和3年下期と同様にコロナの影響を受けている。令和4年下期も「悪化」が44%と厳しい見通しとなっている。

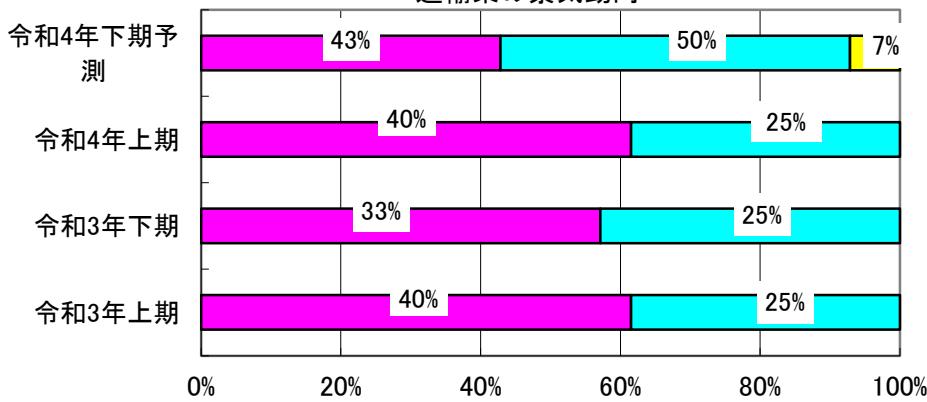
小売業の景気動向



■小売業

令和4年上期は、「好転」8%と令和3年下期より悪化している。「悪化」は85%と令和3年下期と同様にコロナの影響を受けている。令和4年下期の見通しは「悪化」が79%とかわらず厳しい見通しとなっている。

運輸業の景気動向

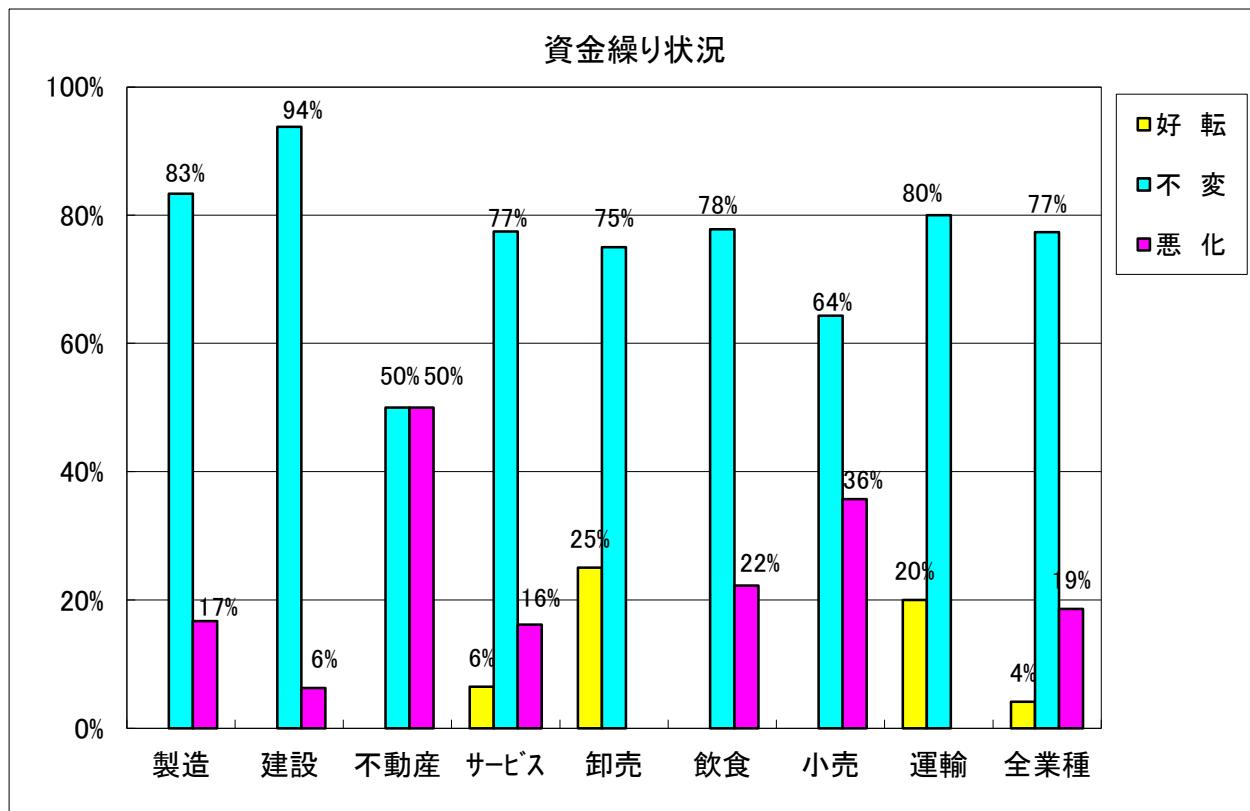


■運輸業

令和4年上期は、引き続き「好転」がなく「悪化」40%と引き続き厳しい状況となった。令和4年下期も「好転」が20%あるものの、「悪化」が40%と引き続き厳しい見通しであった。

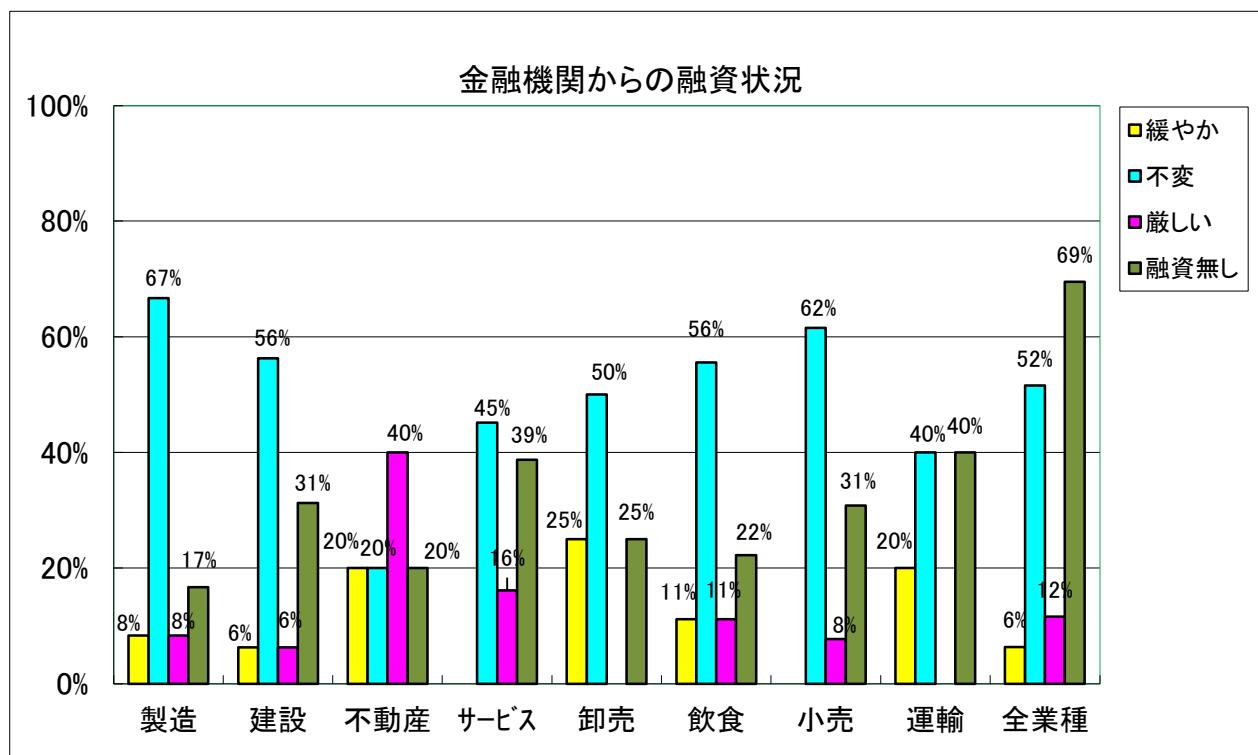
⑥資金繰りについて

全体でみるとコロナの影響により資金繰りが悪化傾向がみられた。「悪化」が19%（前回22%）、「不变」が77%（前回77%）、「好転」が4%（前回1%）と回答している。業種でみると不動産業50%・小売業で36%と悪化傾向が強くみられる。



⑦金融機関の融資状況について

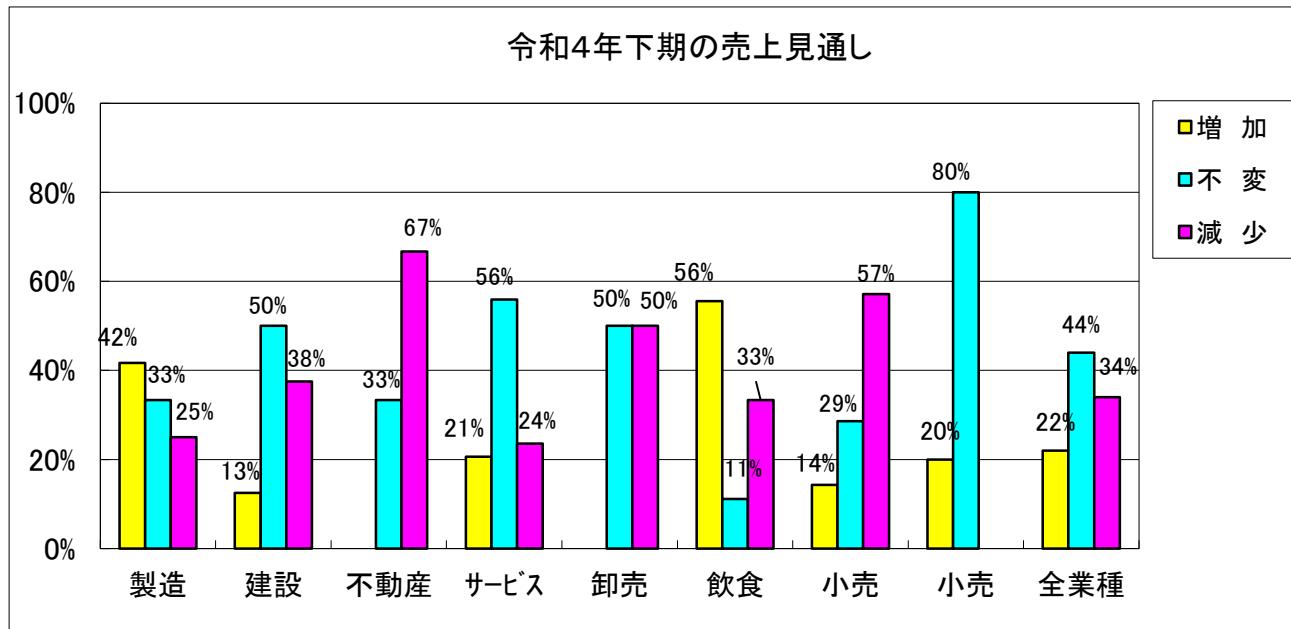
全体的にみると「不变」が52%（前回52%）、「融資無し」が31%（前回29%）、「厳しい」が12%（前回7%）、「緩やか」が6%（前回12%）であった。



調査2 令和4年1月～6月を基準とした令和4年7月～12月の先行き見通しについて調査した。
調査項目は調査1と同じ項目である。⑤業界の景気動向についてはすでに5～6ページで表示してあるのでここでは省略する。

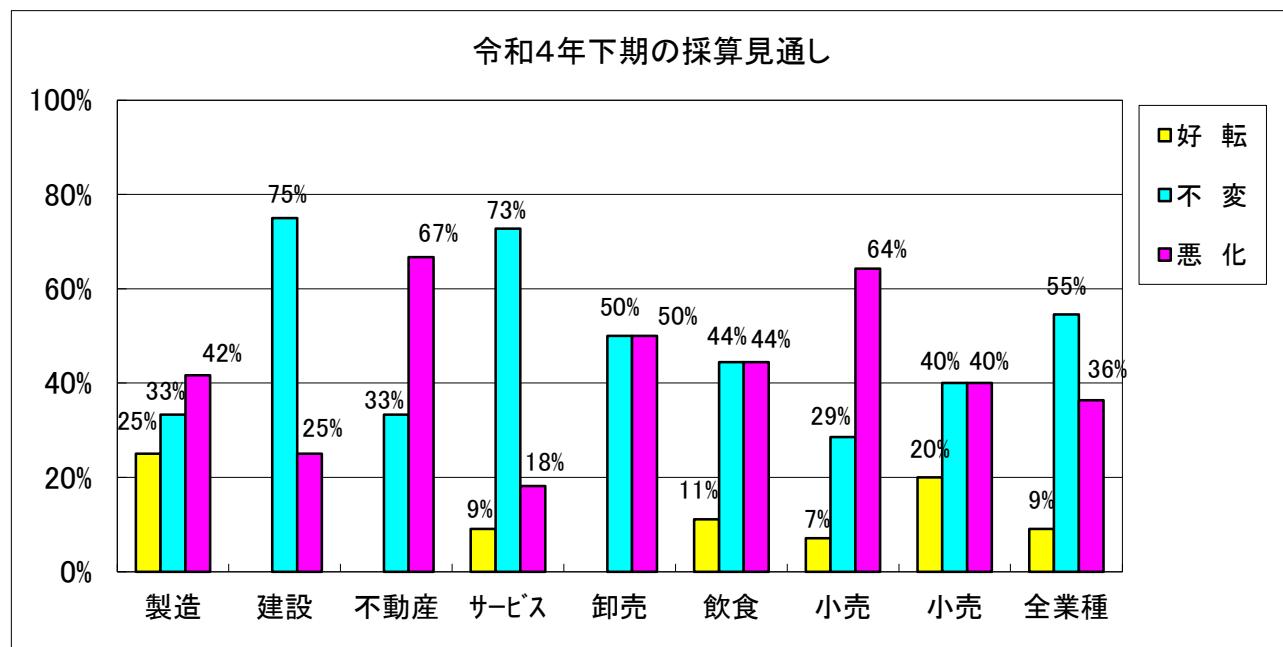
①売上見通し

全体でみると「増加」22%（前回18%）、「減少」34%（前回31%）、「不变」44%（前回51%）となっている。業種別でみると「増加」の見通しが強いのが飲食業（56%）、一方、「減少」の見通しが強いのが不動産業（67%）、小売業（57%）、卸売業（50%）であった。



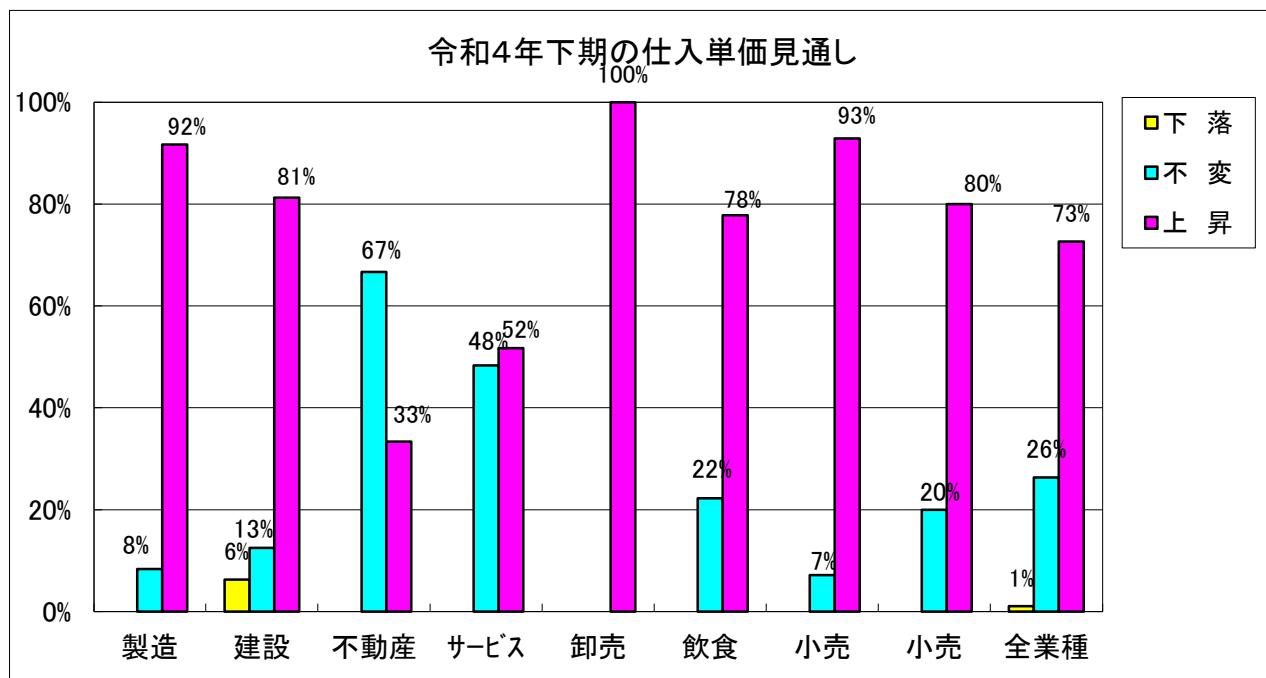
②採算見通し

全体的にみると、「好転」が9%（前回13%）、「不变」が55%（前回51%）、「悪化」が36%（前回36%）となり依然と厳しい状況が続いている。業種でみると、「好転」の見通しが多いのが製造業（25%）で、「悪化」の見通しが多いのが不動産業（67%）、小売業（64%）、卸売業（50%）となっている。



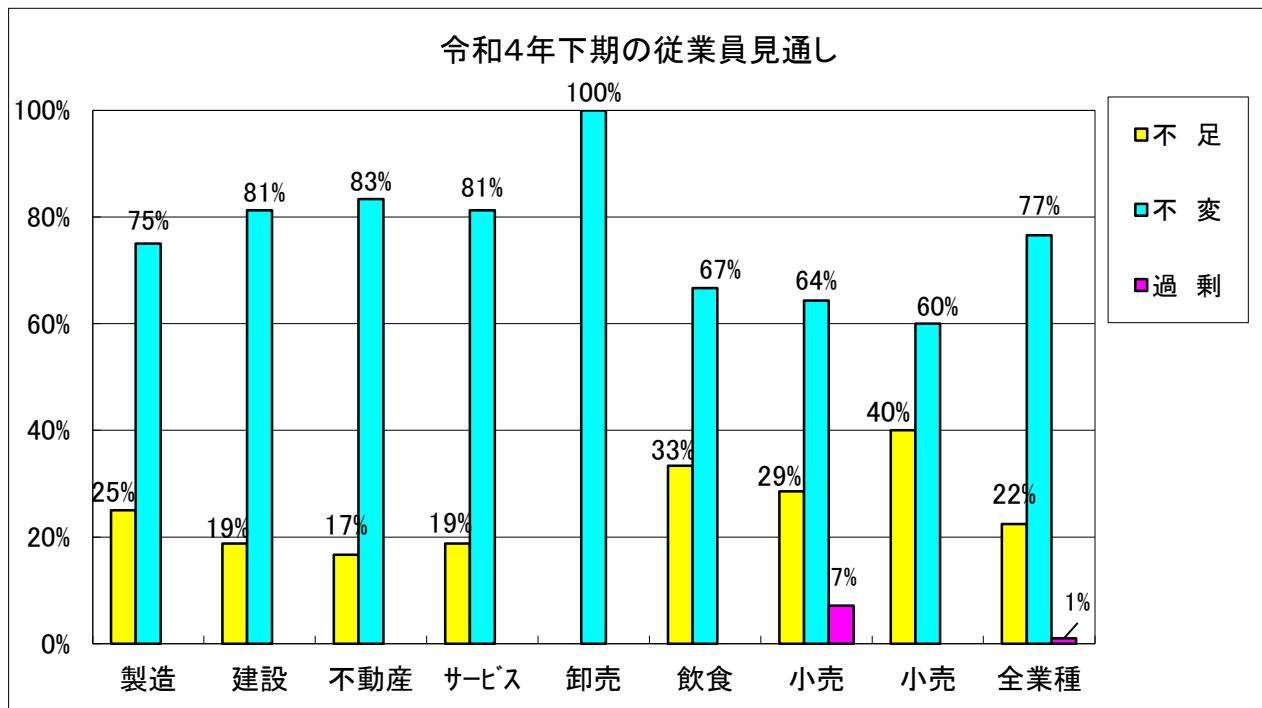
③仕入単価の見通し

全体的には、「不変」が26%（前回56%）、「上昇」が73%（前回43%）の見通しであった。業種別では「上昇」が高いのは卸売業100%、小売業93%、製造業92%高くなる見通しとなっている。



④従業員の見通し

全体的には、「不足」が22%（前回26%）、「不変」が77%（前回73%）、「過剰」1%（前回1%）であった。前回調査に比べると従業員の見通しは改善した。業種別でみると「不足」との見通しが高いのが運輸業40%（前回67%）であった。

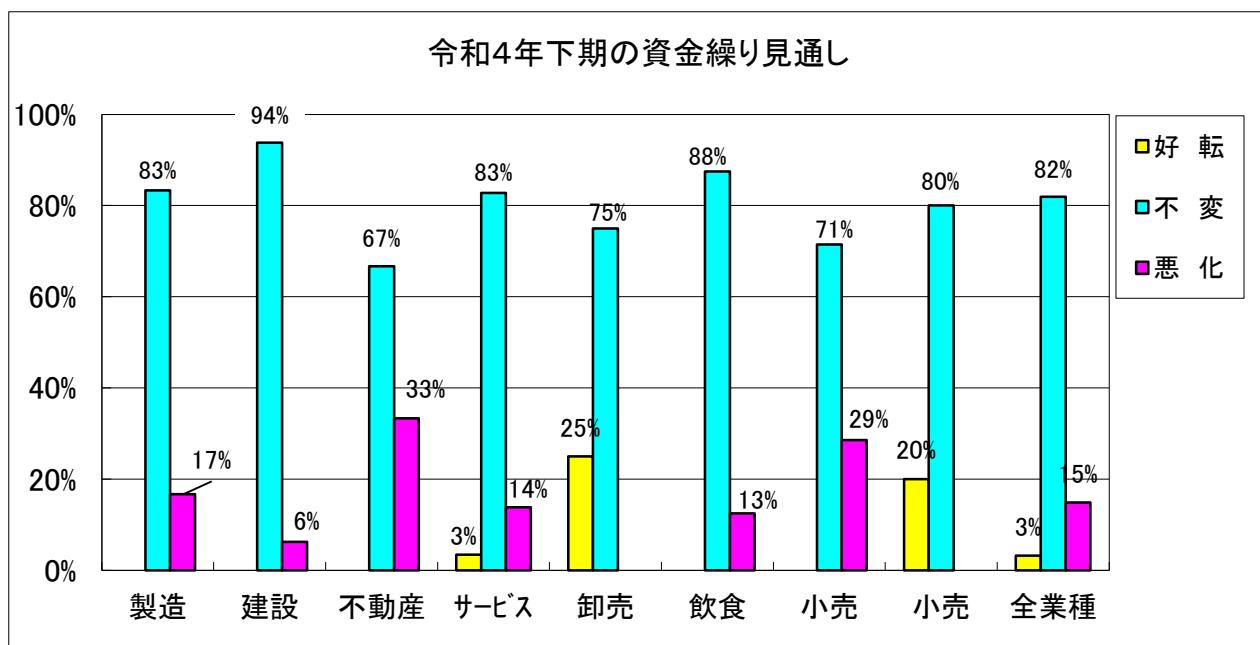


⑤業界の景気動向見通しについて

P5~6を参照。

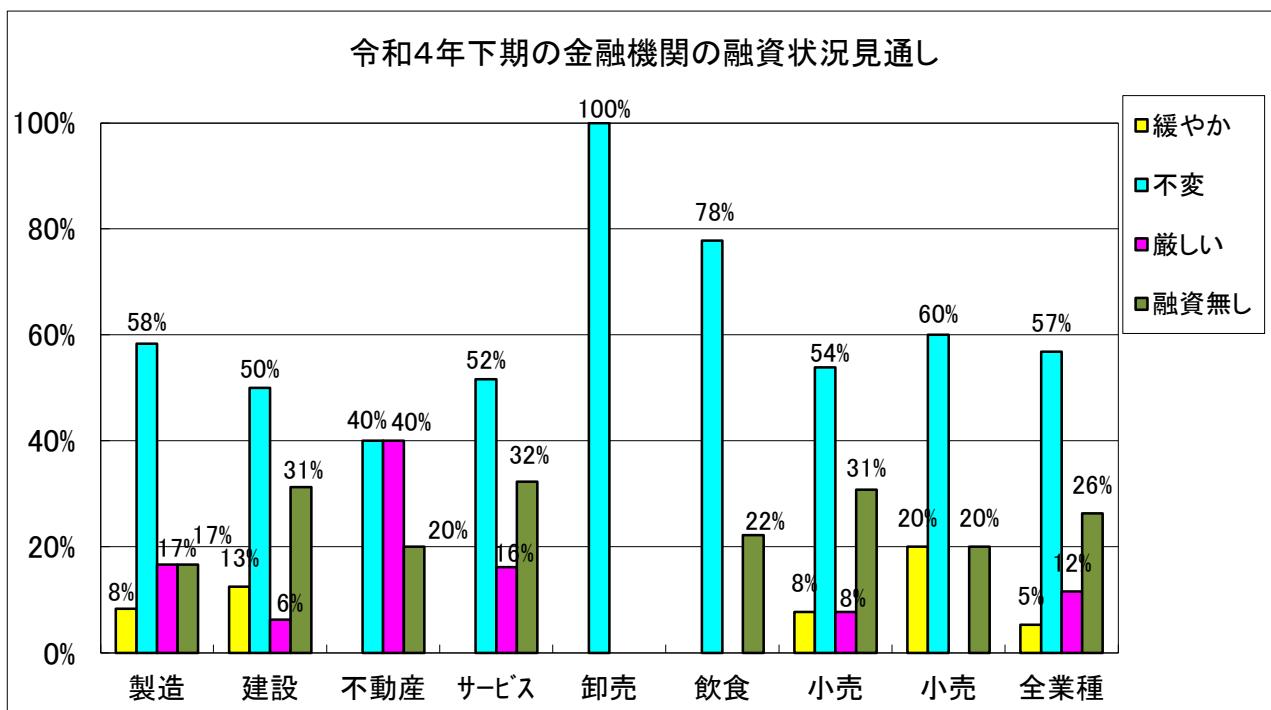
⑥資金繰りの見通し

全体的に「不变」が82%（前回76%）、「悪化」が15%（前回21%）、「好転」が3%（前回3%）となり、資金繰りは前回よりやや改善したものの依然と厳しい状況が続いている。



⑦金融機関の融資状況見通し

全体的には「不变」（57%）が多く、続いて「融資無し」（26%）、「緩やか」が（5%）「厳しい」（12%）となっている。

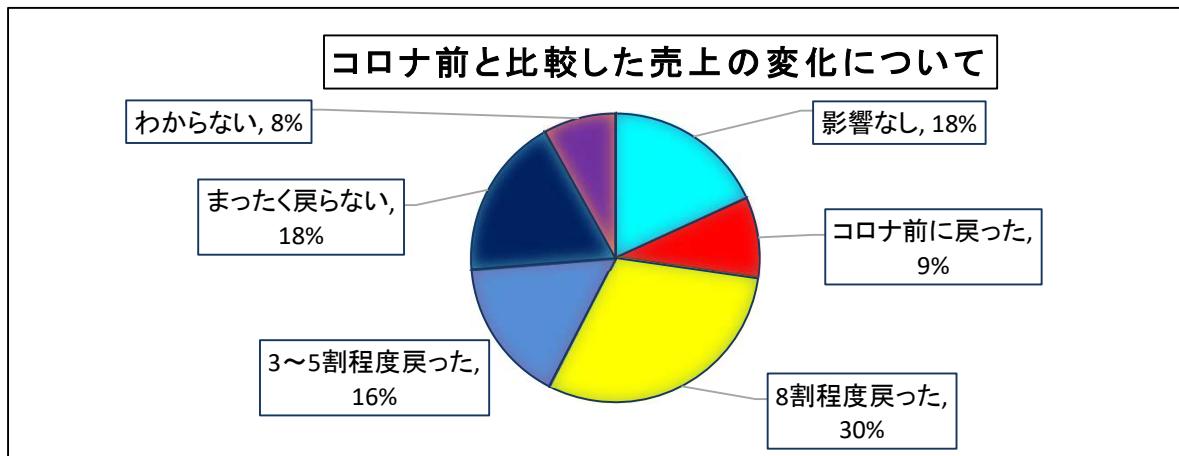


調査3 新型コロナウィルスの影響・インボイス制度について

① 自社事業はコロナ前と比べてどの程度回復したと感じますか。

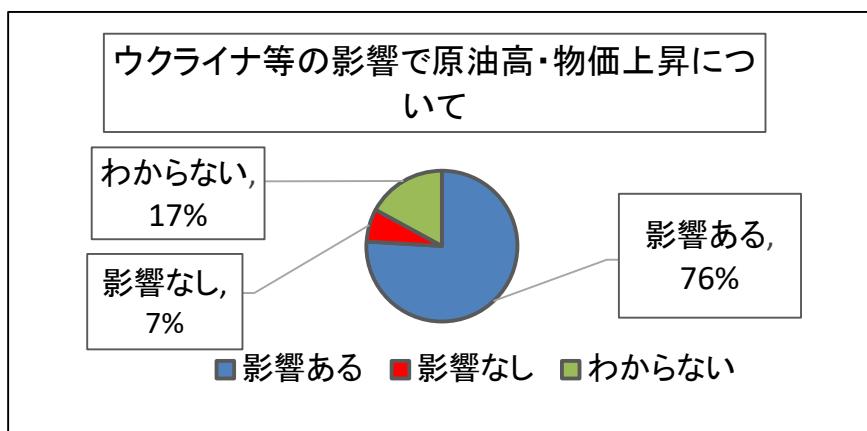
コロナ感染による売上が「まったく戻らない」と回答した企業は全体の18%で未だに厳しい状況である。

しかし、「影響なし」と「コロナ前に戻った」と「8割程度戻った」の合計が57%であった。



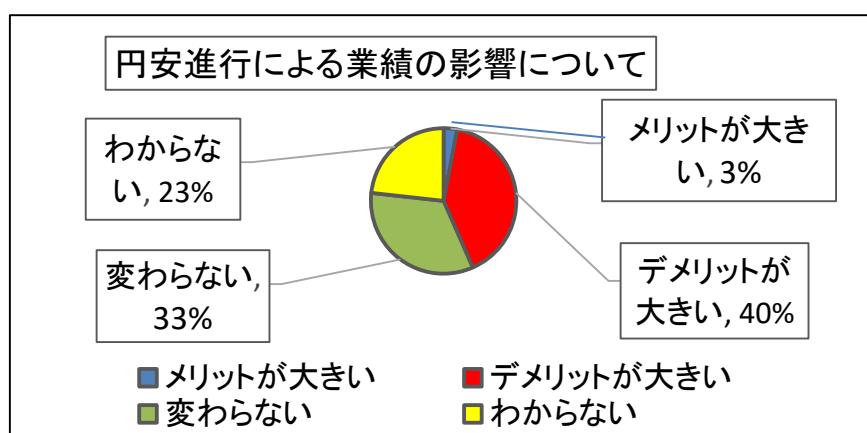
ウクライナ等の影響で原油高・物価上昇について

原油高、物価上昇が「影響のある」と回答した企業は全体の76%で、「わからない」17%、影響なしは7%であった。



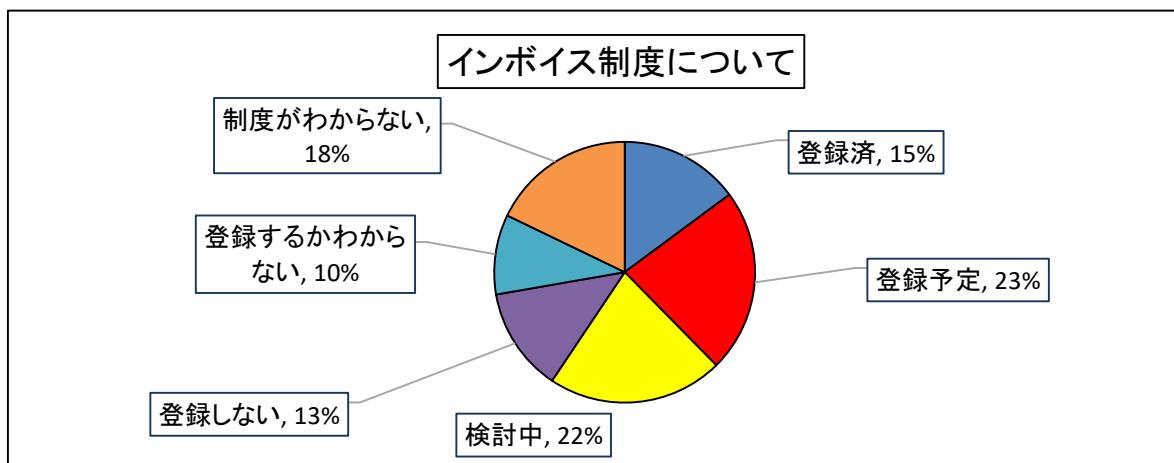
② 円安進行による業績の影響はありますか。

業績の影響について「デメリットが大きい」と回答した企業が一番多く40%で、「変わらない」33%、「わからない」23%、「メリットが大きい」が3%であった。



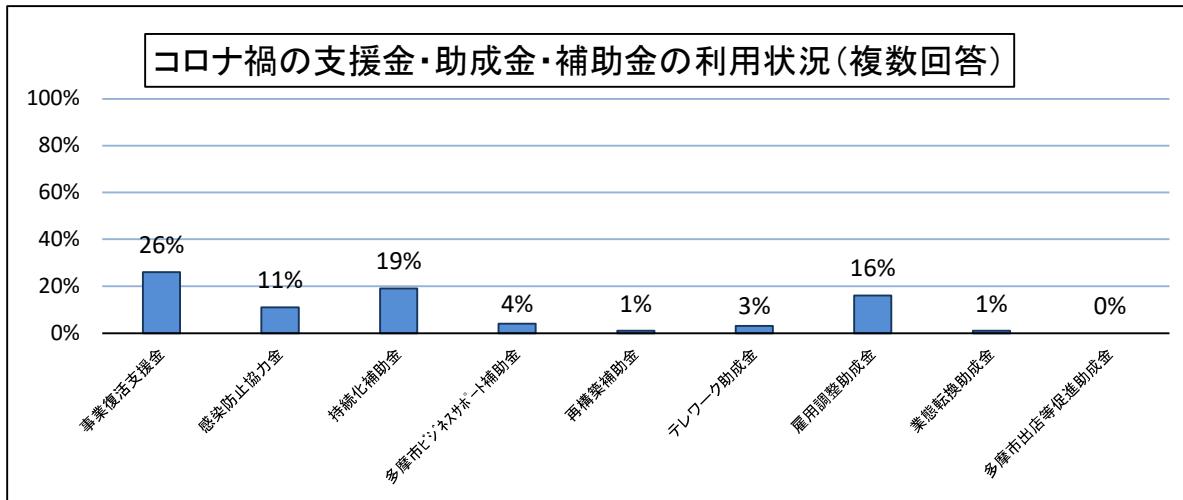
③ インボイス制度について

全体の15%が「登録済」と回答があったが、「制度がわからない」「登録するかわからない」「検討中」の事業者の合計が50%とまだ準備段階の回答が多かった。



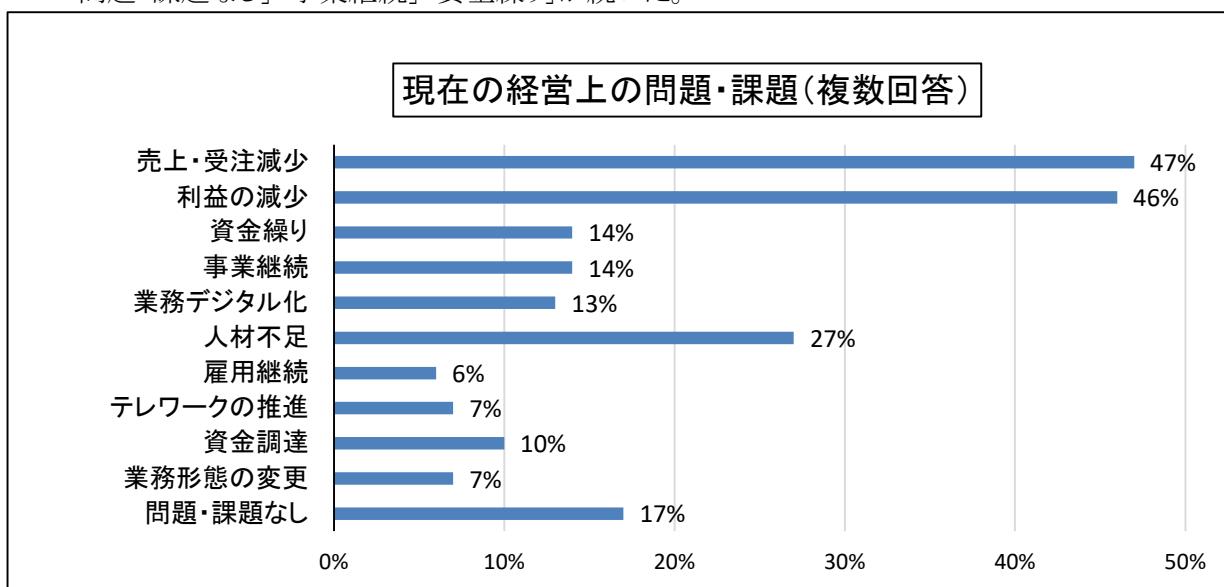
④ コロナ禍の支援金、助成金、補助金の利用状況【予定を含む】について

支援金等の利用状況は、「事業復活支援金」が26%と多く、次に「持続化補助金」が多かった。



⑤ 現在の経営上の問題、課題について

「売上・受注減少」(47%)「利益の減少」(46%)がもっとも多かった。次いで「人材不足」「問題・課題なし」「事業継続」「資金繰り」が続いた。



調査4 今後の景気対策等についての主な意見・要望

- 5年後を見据えた支援制度が必要である。(製造業)
- コロナ禍により、生活習慣が変わり、衣類に関してはまだまだ景気が良くない為、洋服を買う余裕がないと思う。この先もしばらく続くのではないか。(製造業)
- コロナの影響を1年間と考え、2年続く場合を想定し、2020年前期に資金手当を完了。現在に至り予定通りに推移している。物価上昇、需要の回復等予断を許さない状況である。観光業の回復、資金繰りサポートが望まれる。(製造業)
- 半導体生産円滑化希望→車の生産増加(製造業)
- 建築、資材、機器の値上げが利益を圧迫している。いつ収束するか不安。客先に事情を説明して見積金額を調整している。(建設業)
- 多摩市の公共工事(空調)を増やしてほしい。(建設業)
- 減税してほしい(サービス業)
- コロナ禍で在宅勤務やテレワークが増加。それとともに育休制度等の見直しがあり、0歳児の入園が減少、園児獲得が今後のカギとなる。(サービス業)
- 売上が50%減少し、追加融資も厳しい状況で、資金繰りが悪化。半導体不足で仕入遅延・納期遅延による受注キャンセルも増加。もう少し助成金や融資が受けられれば新規事業も検討できるのに。(サービス業)
- コロナの影響を受け、会社の存続の可能性が見えなくなり、事業形態の変更を検討中。(サービス業)
- 仕事がほとんどなくなった。アイデア小物販売は少しずつ始めているが回復には程遠い。(サービス業)
- 多摩市での中小企業サポートなど補助金の枠に入らない場合の支援を考えてほしい。(サービス業)
- 多摩市独自のポイント付与キャンペーン等の実施により購買意欲をかきたてる施策があるといふと思う。(サービス業)
- 販路拡大に向かって具体策を検討中。多摩市ビジネスサポート補助金の申請を検討中。(サービス業)
- 教育に対する支援など子供がもっと安心して学べる環境を作つてほしい。(サービス業)
- コロナ禍において、飲食店の対策ではできることは全て行った。全ては選ぶお客様の判断次第ではないか。景気対策などは考えられない。(飲食業)
- 常連のお客様にはかなり戻ってきているので、もう少しコロナが落ち着いて宴会(大人数)ができるようになるまで粘り強く営業していく。(飲食業)
- ウクライナ、原油高、素材の高騰、販売価格は上げるが従業員の方への賃金UPまで進まない。かなりの悪循環になっている。円安も同様。(小売業)
- コロナの収束とウクライナ問題による平和的解決が取引関係上、特に求められる。(小売業)
- 商品単価が上がり続けているので、この先の消費者の動向が予想できない。(小売業)

付 錄

『令和4年上期 多摩商工会議所管内景況調査』

事業所名		営業年数	年
所在地		電話	()
業種(主たる業種)	・製造 ・建設 ・不動産 ・サービス ・卸 売 ・飲食 ・小売 ・運輸	資本金	万円
事業内容		従業員数	正社員 名、パート等 名

(1) 令和4年上期(1月～6月)の状況について、令和3年上期(1～6月)と比較してお答えください。

項目	■該当をするものに○をつけてください			
①売上	増加	不变	減少	
②採算	好転	不变	悪化	
③仕入単価	下落	不变	上昇	
④従業員	不足	不变	過剰	
⑤業界の景気動向	好転	不变	悪化	
⑥資金繰り	好転	不变	悪化	
⑦金融機関の融資状況	緩やか	不变	厳しい	融資なし

(2) 令和4年下期(7月～12月)の先行き見通しについて、令和4年上期と比べてお答えください。

項目	■該当をするものに○をつけてください			
①売上	増加	不变	減少	
②採算	好転	不变	悪化	
③仕入単価	下落	不变	上昇	
④従業員	不足	不变	過剰	
⑤業界の景気動向	好転	不变	悪化	
⑥資金繰り	好転	不变	悪化	
⑦金融機関の融資状況	緩やか	不变	厳しい	融資なし

(3)新型コロナウィルス、ウクライナ、円安の影響等についてお伺いします。

① 今の御社の業績はコロナ前と比べてどの程度回復したと感じますか。

- ・コロナの影響なし
- ・コロナ前に戻った
- ・8割程度戻った
- ・3～5割程度戻った
- ・まったく戻らない
- ・わからない

② ウクライナ等の影響で原油高・物価上昇について

- ・影響ある
- ・影響なし
- ・わからない

③ 円安進行による業績の影響について

- ・メリットが大きい
- ・デメリットが大きい
- ・変わらない
- ・わからない

④ インボイス制度について

- ・登録済
- ・登録予定
- ・検討中
- ・登録しない
- ・登録するかわからない
- 制度がわからない

⑤ コロナ禍の支援金、助成金、補助金の利用状況【予定含む】について(複数回答)

- ・事業復活支援金
- ・東京都感染防止協力金
- ・持続化補助金
- ・多摩市ビジネスサポート補助金
- ・再構築補助金
- ・テレワーク助成金
- ・雇用調整助成金
- ・業態転換助成金
- ・多摩市出店等促進支援金

⑥ コロナ禍の現在、貴社の経営上の問題、課題についてお答えください。(複数回答)

- ・売上、受注の減少
- ・利益の減少
- ・雇用継続
- ・資金調達
- ・事業継続
- ・事業形態の変更
- ・テレワークの推進
- ・資金繰り
- ・人材不足
- ・業務デジタル化
- ・特になし

(4)今後の景気対策等について、ご意見ご要望をお書きください。

□ご協力ありがとうございました。この調査は、多摩市の景気動向を把握し、今後の意見具申・要望活動に役立てる以外の目的に使用することはありません。